

新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた市民による救急蘇生法

1. 基本的な考え方

・胸骨圧迫のみの場合を含め、心肺蘇生はエアロゾル（ウイルスなどを含む微粒子が浮遊した空気）を発生させる可能性があります。新型コロナウイルス感染症が流行している状況では、すべての人に感染の疑いがあるものとして対応してください。

・成人の心停止に対しては、**人工呼吸を行わない**でください。（胸骨圧迫と AED による電気ショックのみ）

・子供（約 16 歳未満）の心停止に対しては、講習を受けて人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には、人工呼吸も実施してください。

（子供の心停止は、窒息や溺水などが原因とすることが多く、人工呼吸の必要性が比較的高いため）
感染の危険などを考えて人工呼吸を行うことにためらいがある場合には、胸骨圧迫だけを実施してください。

2. 救急蘇生法の具体的手順

新型コロナウイルス感染症の疑いがあるものとして倒れている人への一次救命処置は、次の手順で行います。
処置の前に、次の 3 点に注意してください。

- ・マスクを着用する
- ・手袋やビニール袋を利用して、倒れている人に直接触れないようにする
- ・室内の場合は換気をする



○反応の確認・呼吸の観察

傷病者の顔と救助者の顔が、あまり近づき過ぎないようにしてください。



○胸骨圧迫を行う

胸骨圧迫を開始する前に、ハンカチやタオルなどがあれば、傷病者の鼻と口にかぶせてください。

（マスクや衣服などでも代用できます）



○胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組み合わせ

大人には、人工呼吸は実施せずに胸骨圧迫だけを行ってください。



子供には講習を受けて人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には、人工呼吸も実施してください。

○心肺蘇生の実施後

傷病者を救急隊に引き継いだ後は、速やかに石けんと流水で手と顔を十分に洗ってください。

傷病者の鼻と口にかぶせたハンカチやタオルなどは、直接触れずに破棄してください。



厚生労働省ホームページ（救急医療）

新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた市民による救急蘇生法について（指針）参照

